

プロトコール名		1クールの日数	放射線治療
腎癌 Nivo+Ipi療法		21日	■なし □あり
投与日	薬品名(※赤字は抗がん薬)		
第1日目	① 生食50mL(プライミング用) ② 生食50mL+ニボルマブ 240mg/body 最終濃度は0.35mg/mL以上となるよう調製 ※※※0.2又は0.22 μ mインラインフィルター使用 ③ 生食100mL ④ 生食50mL+イピリムマブ 1mg/kg 最終濃度は1~4 mg/mL ※※※0.2-1.2 μ mインラインフィルター使用 ⑤ 生食50mL(フラッシュ用)		
コメント	計4クール実施し、Nivo 240mg/body q2wへ移行。		

プロトコールに関する解説
<p>腎細胞がんの治療は、多くの場合、手術による局所的な治療が主体となります。しかし、手術による治療が難しい場合や、がんが腎臓から体のほかの場所にも広がっている場合は、お薬を使った全身的な治療が考慮されます。近年、「がん免疫療法」の研究が進み、いくつかのお薬が開発されました。がん細胞を攻撃するT細胞の免疫のブレーキを解除する働きがあるのが「免疫チェックポイント阻害薬」です。オプジーボ・ヤーボイ併用療法は2種類の免疫チェックポイント阻害薬を組み合わせることで、がんに対する攻撃力を高め、より効果的な治療を行うために用いられます。全身的な治療な腎細胞がん患者さんのうち、一定の条件に適合した方が対象となります。初回治療は入院で行う場合があります。多彩な副作用が知られており、重症化することがあるため、症状に気づいたら直ちに医師に相談することが重要です。副作用が出現した場合は休薬や中止となり、副作用に対する適切な治療が必要となります。</p>